

＜指導上のポイント＞

「系列」の問題は、言うまでもなく規則や法則を発見して解答する問題です。色々な形式の問題がありますが、解答するためには知識も必要ですし、質問の意味を理解するために練習問題をすることも必要です。ただ、たくさん練習問題をしていても解答率があまり変わらないときは、法則性や規則性を発見するための思考力のレベルに問題があります。

「系列」の問題は、できる子供ならば苦もなくできますが、できない子供には手に負えない問題もあり、思考力の発達具合のバロメーターとなるものです。知的能力を基礎から育てること、つまり、指先能力や空間認識能力・図形能力・数論理能力などを根本的に鍛えることが、この問題を完璧に解答するための唯一の方法です。

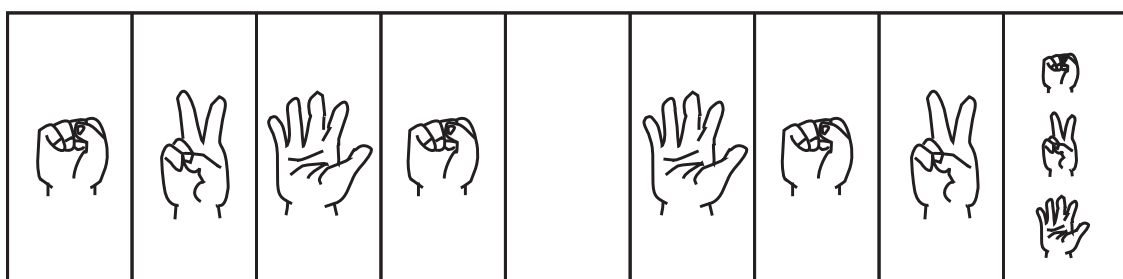
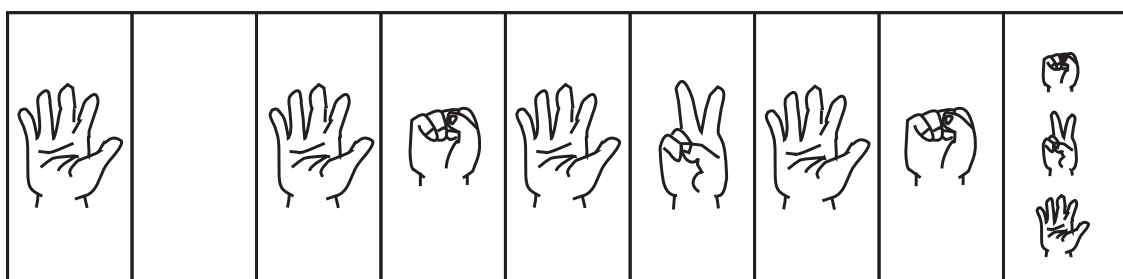
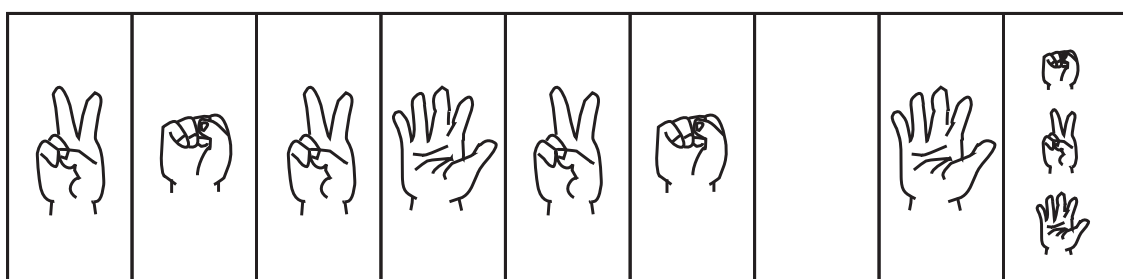
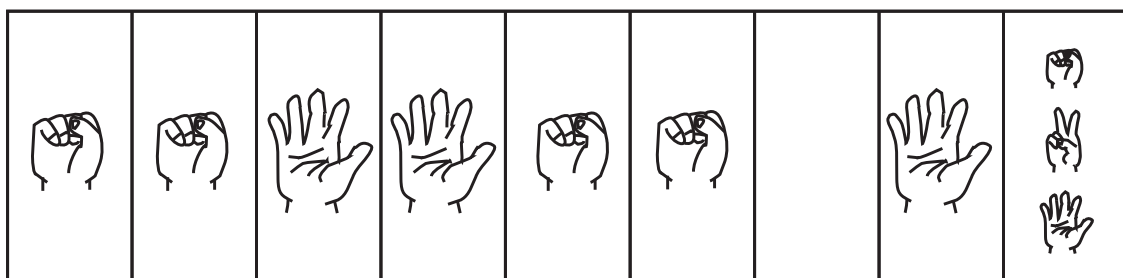
さて、問題の取り組み方ですが、まず全体を見渡し、どのようなきまりや法則性があるかを、問題の中から感じ取るようにさせます。決して、規則や法則を教えたり暗示したりしてはいけません。（全体把握能力）

次に、感じ取った仮の答えを解答欄に入れても、規則性・法則性が崩れないか、それによって規則性・法則性が与えられた条件の中で完成するかどうかを考えます・（仮定法）

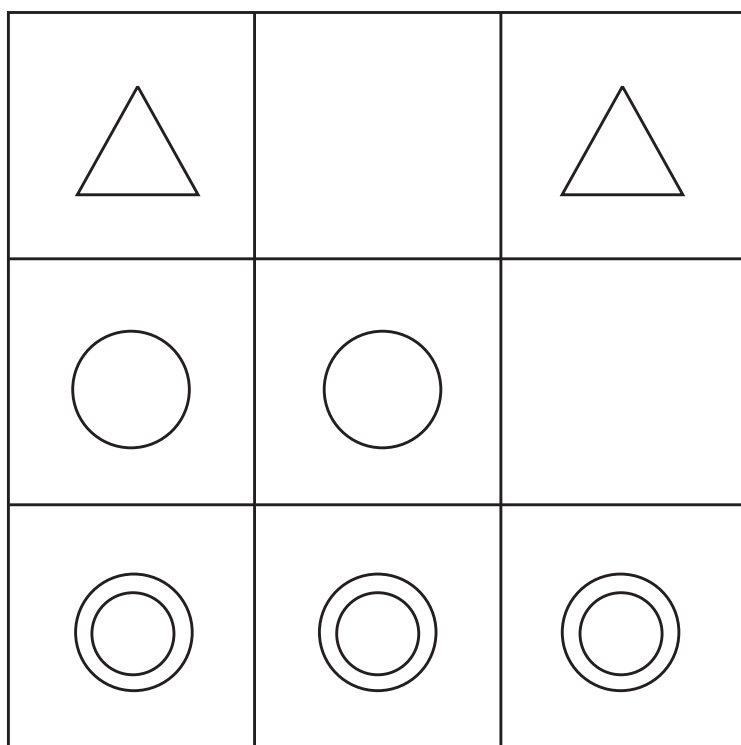
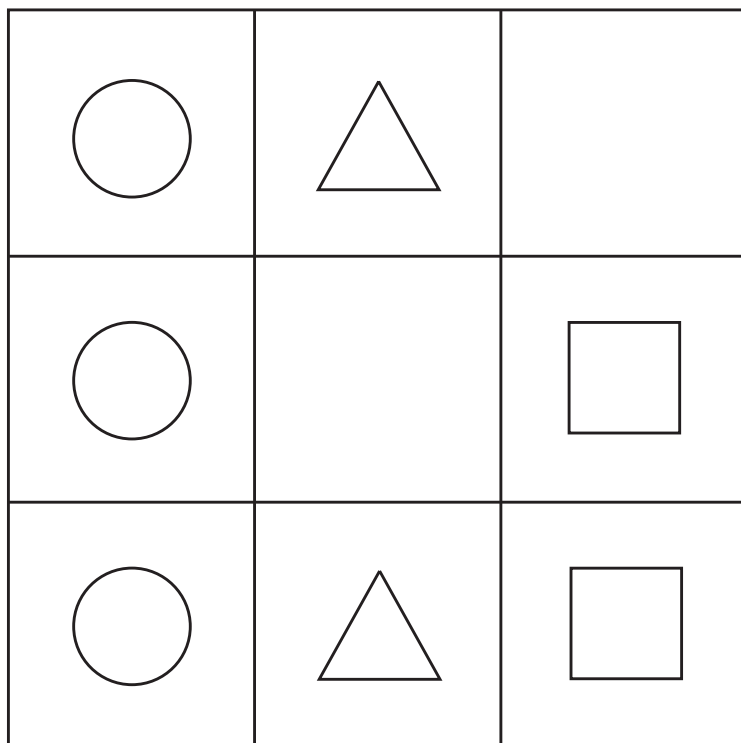
問題の中には、「位置」「繰り返し」「お話の順番」「回転」「季節」など、解答するための前提となる能力を必要とするもの、他との複合問題のようなものもありますが、決して難しいものではなく、この程度のものなら必ず解答できるようにしましょう。

＜例題6＞の話の順番ですが、必ずしも解答の通りでなくてもよく、自由な発想で話を作らせてください。試験では正しい解答も必要ですが、幼児教育とは本来試験のためではなく、自由な発想により知的能力を高めるためにあるのです。

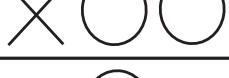
<例題 1> あいているところに入るものを右端の絵の中から見つけて、○をつけましょう。



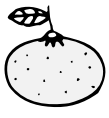
<例題 2 >の類題① あいているところに入るものを考えて、その形をかきこみましょう。



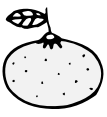
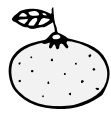
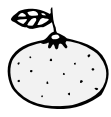
<例題 3>の類題② 点線の□の中に入る形の組み合わせを、右の3つの中から選んで、右端の□に○をつけましょう。

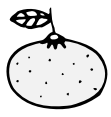
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		

<例題 4>の類題③ 下のあいたところに入るくだものを上の中から選んで、記号をつけましょう。

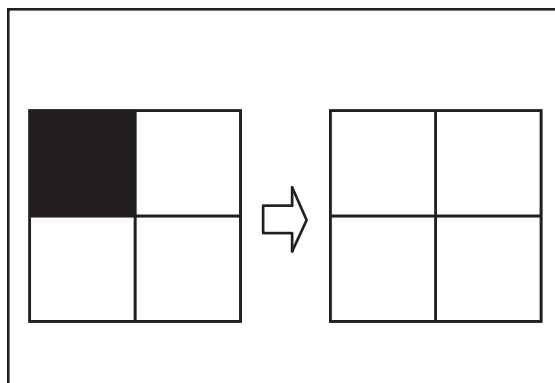
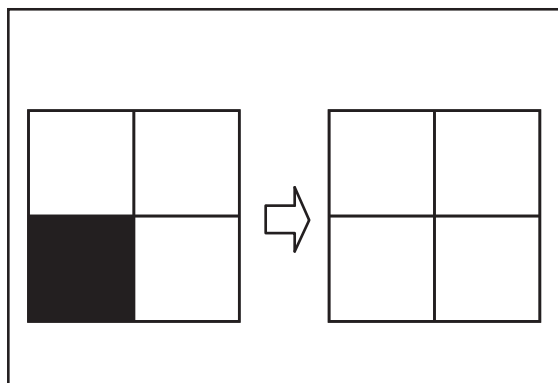
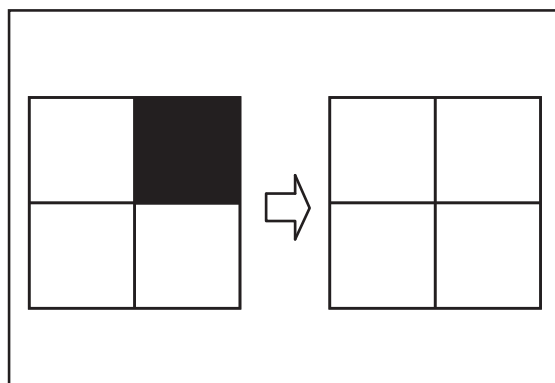
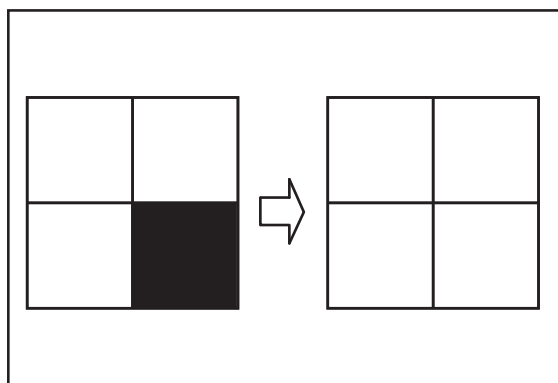
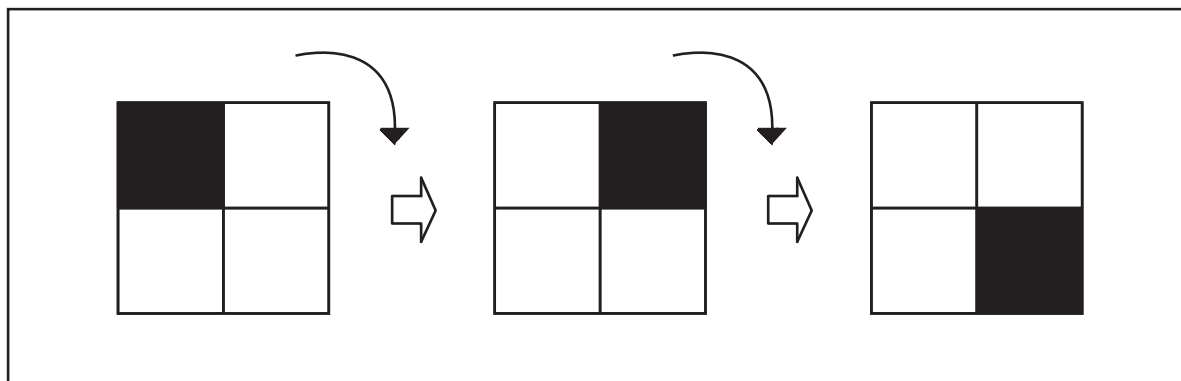
					
---	---	--	---	--	---

							
--	--	--	--	--	---	--	--

							
---	---	---	---	--	--	---	---

							
---	---	---	---	---	--	---	---

<例題 5 > の類題④ 上のお手本を見て、次に来る形を考えて下の絵に描きだしましょう。



<例題 6>の類題③ 話の順番を、1～4の数字であらわしなさい。

